

# ‘王秋’の土壤改良時期が果実品質に及ぼす影響

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

これまでの試験により‘おさゴールド’の土壤改良時期は、10月下旬～11月上旬が適期であり、大玉生産につながることを明らかにした。一方、晩生品種において、この時期は収穫期にあたることから果実品質への悪影響が心配される。そこで、‘王秋’を供試し10月下旬（収穫期）、11月中旬（収穫後）、12月中旬（収穫後）の3時期に土壤改良を行い、果実への影響を調査する。

### (2) 情報・成果の要約

- 1) ‘王秋’の土壤改良は収穫期（10月下旬）～収穫終了（12月中旬）の期間であれば果実品質への悪影響は認められない。
- 2) コルク状障害の発生に土壤改良の時期は影響しない。

## 2 試験結果の概要

- 1) 12年生‘王秋’9樹を用いて2010年秋から処理を開始した。1か所当たり縦2.0m、横60cmの範囲にバーク堆肥（50L）、苦土石灰（2kg）、ヨウリン（1kg）を敷き、深耕ロータリーを用いて50cmの深さまで土と混和した。こ

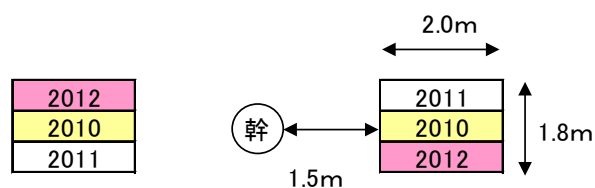


図1 土壤改良の概略図

- この処理を各処理時期に主幹を挟んで2か所（図1）行い、3年間継続した。
- 2) 果重は、土壤改良時期による影響は認められなかった（表1、図2）。
- 3) 果色、糖度、熟度、コルク状障害についても土壤改良時期による影響は認められなかった（表1、図3）。

表1 土壤改良時期が果実品質に及ぼす影響（2013）

処理区 <sup>1)</sup>	調査果数	果重 g	果色 <sup>2)</sup> C. C.	糖度 %	熟度 <sup>3)</sup>	コルク状障害	
						発生率 %	発生度
10月区	178	873a <sup>4)</sup>	3.2a	12.7a	58.3a	53.9a	21.1a
11月区	180	837a	3.1a	12.8a	58.9a	53.9a	19.4a
12月区	180	806a	3.5a	13.0a	59.5a	59.4a	19.4a

1) 10月区: 2010年10月20日、2011年10月20日、2012年10月19日に処理

11月区: 2010年11月15日、2011年11月14日、2012年11月15日に処理

12月区: 2010年12月15日、2011年12月15日、2012年12月18日に処理

2) 農水省のカラーチャート値

3) Brixcan（三井金属）による測定値

4) 表中のアルファベットはTukey-kramerの多重比較検定により同一項目内において異符号間で有意差ありを示す

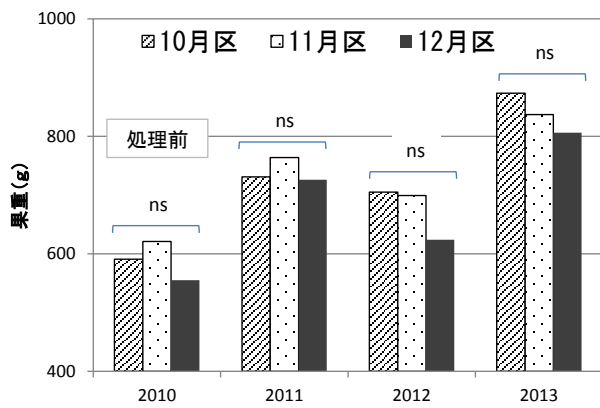


図2 土壤改良時期の違いが果重に及ぼす影響

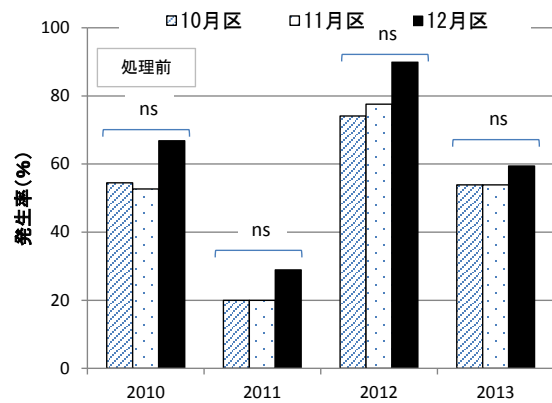


図3 土壤改良時期の違いがコルク状障害発生に及ぼす影響

### 3 利用上の留意点

- (1) 黒ボク土ほ場による12年生樹に対する試験であり、土質や樹齢によっては異なる結果になる場合も考えられる。

### 4 試験担当者

果樹研究室	主任研究員	井戸亮史
果樹研究室	室長	角脇利彦*
果樹研究室	室長	池田隆政

\*現 とっとり農業戦略課専技主幹